

- 管内 檜山管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（社会科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 防災に対する児童の意識を高めるための日常的な実践
- 保護者や地域と連携し、学校内外の安全確保に努める防災教育の推進
- 北海道南西沖地震の教訓の活用

取組の実際

ねらい

- 危険を理解し、自らの安全を確保する行動ができるようにする。
- 保護者、地域と連携した防災教育をととして、震災の教訓を理解する。

内容

1 防災への意識を高める日常的な実践

(1) 発達の段階に応じた防災教育の実施（特別活動における話し合い）

< 2年生 >



< 3・4年生 >



< 5・6年生 >



【家でできること】

【学校にいるときに気を付けること】

【自分たちができること】

(2) 生活規律の徹底による、迅速かつ整然とした行動のできる力の育成

- 教室環境を整備するとともに、地震に備えヘルメットを整然と並べる。

(3) 避難訓練の工夫

- 下校時の避難訓練の実施
 - ・地震の後に津波が来ることを児童自身が想定し、高台に避難する。上級生は、下級生が適切に避難できるよう手助けを行う。
- 保護者への引き渡し訓練の実施
 - ・家庭への緊急連絡網を活用し、保護者に子どもたちを引き渡すまでの流れを確認する。



2 地域と連携した防災教育の推進

- 「奥尻島津波語り部隊」による講話

実体験に基づく自作の紙芝居「あの坂へ逃げ」の読み聞かせ活動において、語り部自身が高校生の時に、間一髪で津波から逃れた体験を真剣に伝え、子どもたちの心に訴えかけた。



成果と課題

- 生活規律を徹底し、日常から整然とした態度で行動したり、教室環境を整えたりすることにより、防災意識の習慣化が図られた。
- 下校時の避難訓練を引き渡し訓練と兼ねることにより、家庭との連携が深まった。
- 語り部隊の経験談から災害時の避難活動にして、実際の生活場面に即して考えることができた。
- 下校時だけではなく、様々な場面を想定した避難訓練を計画する必要がある。